



第4回中曽根康弘賞授賞者名簿（平成20年6月27日授賞）

1 Shin-wha Lee（優秀賞）

年齢：1965年9月22日生れ（42歳） 国籍：韓国

所属：高麗大学 政治科学・国際関係学部 教授

授賞理由：これまでに、「東アジア共同体の将来像」、「UNESCO 人的安全保障プロジェクト」、「1994年のルワンダ虐殺の国連の独自調査活動」、「北東アジアにおける環境保護と協力」、「北東アジアにおける戦略思考」といったテーマでの調査研究などの活動を主導的に行い、その提言等が様々な政策等に示唆を与えるものとなっている。アジア・太平洋地域における安定と発展を目指していく上で、上記のテーマでの調査研究の内容は混迷した世界に対してビジョンを与えるものとして高く評価されるべきものであり、今後、もっとも活躍が期待される。

2 服部 匡志（はっとり ただし）（奨励賞）

年齢：1964年1月8日生れ（44歳） 国籍：日本

職業：ベトナム国立眼科研究所 客員研究員

授賞理由：2002年以降、単身でベトナムにわたり、現地の医療活動に従事してきた。現地の医療インフラが未整備であったため、私費を投じて、眼内内視鏡やレーザーなどの最新の医療機器を日本から持ち込み、貧しい患者には治療代をとらずに眼科治療を続け、さらに、本人一人では治療できる患者数に限界があるため、自分と同じように手術のできる医師の養成にも取り組んできた。現在ではベトナムだけでなく、タイ、ラオス、インドネシアなど近隣の国々にも医療活動の場を広げている。

3 Monir Hossain Moni（奨励賞）

年齢：1971年5月1日生れ（36歳） 国籍：バングラデシュ

所属：ダッカ大学 社会科学部政治学科 准教授

授賞理由：今後の南アジア地域の発展に対する日本の役割について研究を行い、日本と南アジアとの相互協力の将来的展望と方向性についての提言を行ってきた。これは単に政治的な協力関係だけでなく、経済的な協力関係や、総合的な理解と協力関係を強化する一助となるべき社会文化のおよび知的レベルでの交流をも含むものとなっている。今後の南アジアと日本との協力関係、相互理解を促進する上で、これらの研究は重要な役割を果たすべきものであり、高く評価されるものである。

4 楊 永明（奨励賞）

年齢：1964年7月13日生れ（44歳） 国籍：台湾

所属：国立台湾大学 政治学部 教授

授賞理由：国際法や国際安全保障の分野を専門として研究を行う一方で、台湾の安全保障問題に関する研究についてホームページ「Taiwan Security Research (TSR)」を開設し、中国・台湾・米国関係の状況等について客観的、冷静に情報発信を行ってきた。この内容は、台湾の研究者のみならず、中国の関係者にも信頼を得ているところであり、台湾海峡の平和と安定の一助ともなっている。さらに政策指向の国際的な共同研究プロジェクトにも数多く参加して、台湾問題の国際的理解の促進にも大きな役割を果たしてきた。